

高校生ワークショップを開催



LGBTQ+の正しい理解が未来を変える～高校生から広げる「アライ*」の輪～と題し、8月17日(火)に、高校生対象のワークショップをオンラインで開催しました。都内の4校の都立高校から各5名に参加いただき、LGBTQ+の方々が抱える悩みや葛藤、社会で直面する課題について理解を深め、一人ひとりの「ありのまま」の個性が尊重される社会を実現するため、明日からできることについて考えました。

講演はNPO法人東京レインボープライド共同代表であり、元フェンシング女子日本代表の杉山文野さんにご自身がトランスジェンダーとして物心ついた時から悩み続けていた思いや葛藤を、当時の写真を元にお話いただきました。本ワークショップでは、グラフィックファシリテーションを取り入れ、しごと総合研究所の山田夏子さんに参加者の声や想いを絵や色を使って描きあらわしていただき、杉山さんのお話について、皆で理解を深めていきました。また、杉山文野さんのお話を踏まえ、5つの立場(本人、友達、先生、家族、社会)になり、それぞれの立場で受けとめるグループワークを行い、最終発表では学校別に、アライの輪*を広げるために学校や同世代にどのように発信すべきかを考え、効果的な方法や、感じたことを発表してもらいました。事後課題として、学校の仲間とどのようにワークショップの学びをどのような方法で発信をするのが効果的かについて、学校別に提出をしていただきました。

ワークショップの内容については、10月中旬に日立財団のWebサイトで公開します。

*「アライ」とは仲間や同盟を意味する英単語「Ally」が語源で、一般的にLGBTQ+への理解者・支援者を意味します。



NewsLetter

Vol.40/2021.10

日立財団では、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

学術・科学技術の振興

日立感染症関連研究支援基金

選考を開始しました！

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが世界各国で甚大な人的・経済的・社会的影響を及ぼすとともに、その対処を通して政治・経済、法制度、科学技術、国際関係など様々な分野において多くの脆弱性や課題が浮き彫りになりました。現在、国際社会はCOVID-19禍収束への努力とともに、よりレジリエントな社会の構築に向け、COVID-19禍からの教訓と知を共有する必要があります。日立財団は、日立製作所ならびに同社役員や社員、グループ会社役員からの寄付により、「日立感染症関連研究支援基金」を新設しました。本基金は、COVID-19禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす研究に対して助成するものです。採択された研究プロジェクトには、2021年12月より最長3年間の研究助成を行い、より強靱な社会の構築に資する研究を行う研究者たちを支援していきます。

2021年4月～6月の募集期間を経て、現在、選考委員会のもと、厳正な選考作業を進めています。11月に採択者を正式決定後、2022年1月に日立財団ウェブサイトにて、公開を予定しています。

助成金額

総額 1億5,000万円

大型研究 5,000万円以下/件

扱う課題領域が複数あり、複数の専門性が求められる複合的テーマで、扱う地域が複数の大陸に広がりをもつ大規模な研究。

中型研究 3,000万円未満/件

大型研究に満たない規模(課題領域や求められる専門性が限定的で、扱う地域、国が複数)の研究。

助成期間

2021年12月から最長3年間

主要応募条件

- 複数の研究者による共同研究提案であること。
- 研究代表者は、日本国内の大学や研究機関(株式会社は除く)に所属していること。
- 研究チームには、必ず海外の大学または研究機関に所属している研究者が含まれていること。

選考基準

- エビデンスやデータに基づく実証的研究であるか。
- 国際的共同研究でなければ達成できない挑戦的な研究枠組み・アジェンダであるか。
- 研究のアプローチは学際的で、役割分担・協働は明確であるか。
- 研究成果の国際的・国内的なアウトリーチについて計画されているか。
- 研究計画は期間内で達成可能であるか。
- 研究計画における研究経費の見積もりは妥当であるか。

助成分野

臨床研究や生物医学的研究ではなく、COVID-19禍が市民生活、政治・経済、法制度、科学技術、地域社会、国際関係などに及ぼした影響についての人文社会科学、政策科学、社会医学的側面からの調査分析や国際比較調査分析などとなりますが、必ずしもCOVID-19の感染症に限定するものではありません。研究対象国は日本に限定する必要はありません。

研究テーマ例

- 医療分野のレギュラトリーサイエンスへのデータ活用
- 途上国での中長期的な社会影響と国際支援
- 科学的助言と政治的・行政的意思決定の社会的受容・受忍
- 政府・メディア・科学コミュニティによる国民へのコミュニケーションと行動変容
- 感染拡大防止策と経済政策の両立
- ライフスタイルの変容可能性と都市デザインの未来像

スケジュール

2021年4月1日	募集開始
2021年12月	助成開始
2022年1月	採択研究概要発表会
2023年3月	中間報告(1回目)
2024年3月	中間報告(2回目)
2025年2月	研究成果発表会・シンポジウム
2025年12月	研究概要誌発行

倉田奨励金

倉田奨励金研究報告書 第50集 WEB版公開

日立財団では、研究助成「倉田奨励金」によって行われた研究の成果報告を広く一般の方に知っていただくため、「倉田奨励金研究報告書」として年1回発行し、公表しています。

今年度発行の第50集は、2016年度（第48回）～2019年度（第51回）に倉田奨励金を受領された方の研究テーマから、20編の成果報告を掲載しています。

詳しくは財団ウェブサイトの「第50集 倉田奨励金研究報告書」をご覧ください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/kurata/research-report50.html>

なお、本報告書の冊子版は12月に発行予定です。



2021年度倉田奨励金
選考開始

今年度の倉田奨励金は、7月1日～9月15日の募集期間を経て現在、選考委員会のもと、選考作業を進めています。1月に正式決定し、採択された研究者の皆さんには、3月1日に開催予定の贈呈式で助成金を贈呈いたします。

日立財団アジアイノベーションアワード

2021年度受賞者選考を進めています！



日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために2020年度から開始した表彰事業です。本アワードでは、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

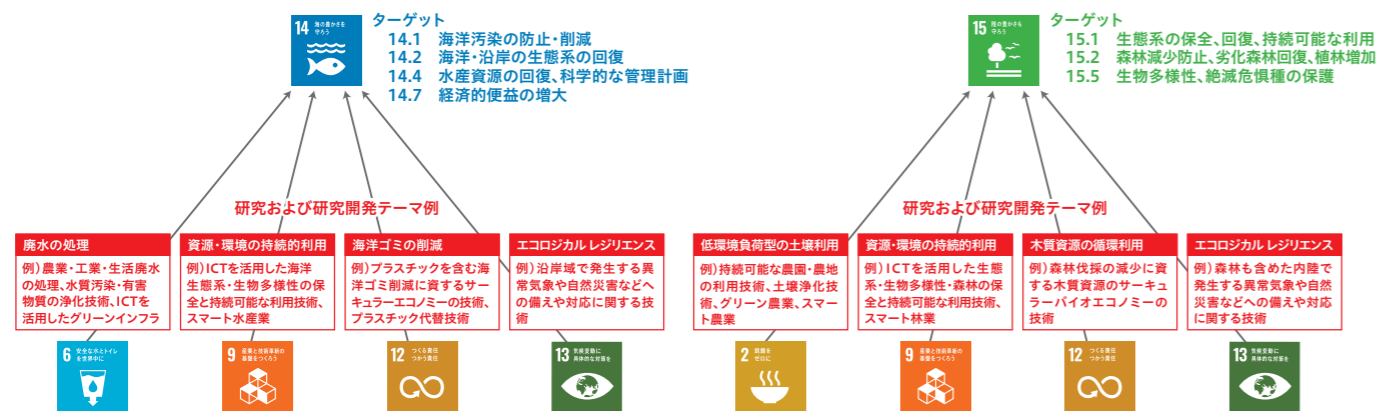
最優秀賞 300万円/件

優秀賞 100万円/件

奨励賞 50万円/件

2021年度の募集内容

2020年度のASEAN諸国のSDGs達成状況より、未達成の課題が多く残っていた**ゴール14「海の豊かさを守ろう」**と**ゴール15「陸の豊かさを守ろう」**のそれぞれ以下のターゲットに貢献する研究および研究開発の成果を募集しました。



2021年度の応募対象

ASEAN諸国のうち、ゴール14とゴール15の課題が多く残るカンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナムの6カ国を選定し、これらの国において、ゴール14とゴール15の研究分野で国を代表する、21の大学および研究機関を対象としました。

今後のスケジュール

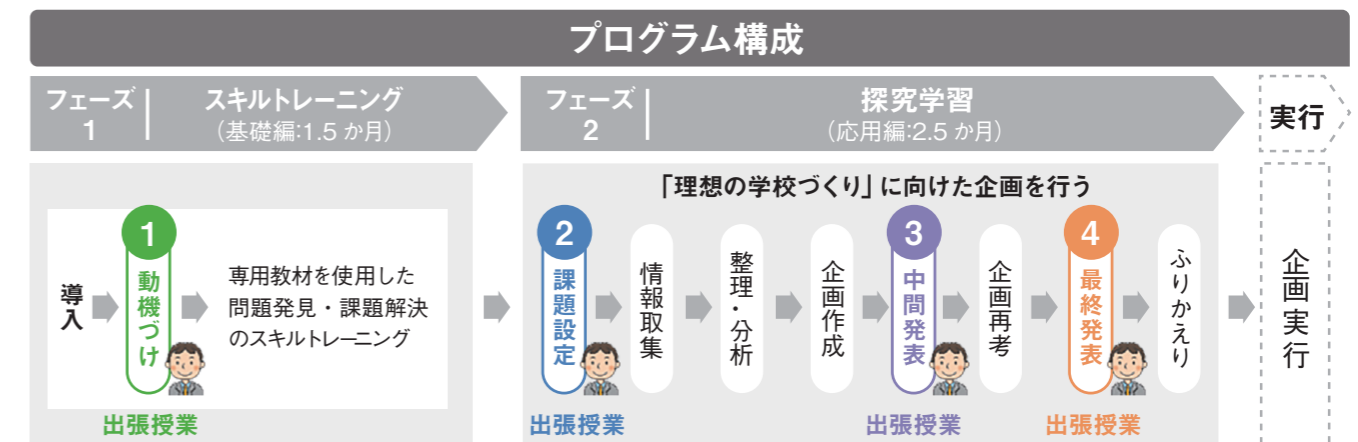
11月に受賞者を正式決定後、2022年1月に日立財団ウェブサイトにて、公開を予定しています。

日立みらいイノベータープログラム

2021年度の出張授業がスタートしました！

日立財団は、これからの理工系人材に求められる問題発見力や、課題解決力を育成するために、小学校5年生を対象としたプロジェクト型探求プログラムとして、この日立みらいイノベータープログラムを開発しました。2016年度から、日立グループ各社と連携し、出張授業を実施しています。

2021年度も、昨年度に引き続き、コロナ禍でのプログラムスタートとなりました。7月～9月にかけて、3校で出張授業1回目を終えたところです。感染対策に十分配慮し、オンラインでの実施を中心に進めています。小学校で実施の際は、体育館で距離を取るなど、児童や講師の安全に配慮した形で、実施しました。コロナ禍でも児童たちのやる気が伝わる、出張授業1回目となりました。



柏市立酒井根東小学校

7月9日(金)、講師に日立物流の多賀さんを迎え、日立物流の課題解決事例をご報告いただきました。

児童たちは、多賀さんの質問にもしっかりと答え、積極的にプログラムに参加してくれました。



戸田市立美谷本小学校

9月8日(水)、日立財団の石塚理事長が講師を務め、オンラインで出張授業に参加しました。

その後、教室で、水にしずむ、しずまない食器について、実験を行い、児童たちが考えた仮説を、積極的に発表してくれました。



立川市立第七小学校

9月24日(金)、企業講師として、日立ソリューションズ・テクノロジーの赤平取締役が、オンラインで参加されました。

元気いっぱいな児童たちは、その後の実験でも、自分たちの考えた仮説と異なると、「なんでー?!」と声をあげながら、実験に取り組みました。



【今年度実施校】

・埼玉県戸田市立美谷本小学校 ・東京都立川市立第七小学校 ・千葉県柏市立酒井根東小学校

※各校の出張授業の様子は、日立財団Facebookでもご紹介しています。